RIKKYO ADVERTISING CLUB OB SOCIETY

立教大学広告研究会OB会報

URL:www.rikkyo/ad/ob.jp

Vol.30

発行所　立教大学広告研究会OB会
〒104-0061　東京都中央区銀座8-14-5
TEL（03）3541-5405
発行人　佐藤 弘美
編集人　黒岩 俊隆
平成21年（2009年）10月発行
第30号・記念号（毎年2回発行）

オータムフェスティバルのご案内

一昨年まで銀座十字屋ホールで開催されていたサマーフェスティバルと、12月のOB・現役交流会を合体させた新企画です。OB相互ならびにOBと現役の融和と親睦を図るとともに、新OB（4年生）をOB会に迎える歓迎会の意味も含んでいます。OB会員の皆様、お誘い合わせの上、久しぶりの思い出のキャンパス探訪もかねてぜひご参加ください。

●日　時：平成21年11月20日（金）　PM6:00 受付　6:30 開宴
●場　所：立教大学第一学食（4丁目の先突き当たり）
●会　費：5000円
●催しもの企画：研究局制作作品、入賞作品展示
　キャンストスライド映写
　今年度（11月3日の立教祭）のミスコン映像
　抽選会、　その他各種セレモニー等を予定いたしております。

サスティナブル（持続可能な、永続性のある）広研OB会のために

OB会の活動も55周年を通過し、新たなページを綴ることとなりました。

そこでOB会として本年より新たな試みに取り組んでまいります。以前のホームページを閉鎖し、全く新しい会員参加型のホームページを新設いたします。ここにはイベント情報、現役の活動、ニュースなどを配信するメインページに加え、パスワードを使用する会員専用ページを設け、会員同士の近況報告や相互の意見情報交換、ビジネス情報交換、年度ごとの忘年会などの飲み会情報、マスターズ全体コンペや年度対抗ゴルフの情報など、アップデートな意見交換のできる場面を創造してまいります。キャンパスで語り合った当時の雰囲気をホームページ上で再現したいと思います。

またその他〈キャンスト等の現役支援〉〈会員相互の親睦を図る各種イベントの開催〉〈会報の充実〉などを通じ、より一層のOB会活動の活性化を図ってまいります。

郵便振替も可能になります

これらの活動を進めていくためにも、会員各位からの年会費3千円のご協力なくしては実現することができません。なにとぞご理解の上、一人でも多くの皆様からの会費納入をお願い申し上げます。なお従来の銀行口座からの自動引き落としのほか、自動引き落としを利用されていない会員の方々に本年より郵便局の振替口座を設けました。この会報に振替用紙をご利用の際は、振り込み手数料はOB会が負担いたします）。重ねてよろしくお願いいたします。

平成21年10月吉日

OB会長　佐藤弘美
事務局長　及川　哲
会計担当　箕輪正則

振込み先：みずほ銀行銀座中央支店 店番号125 普通預金口座番号 1869599 立教大学広告研究会OB会

9月12日秋合宿にて

●第56回立教学生キャンプストア店長　鵜沢宏明
「キャンストは終わってしまいましたが、これからもがんばります。」

●第56回立教学生キャンプストア営業副店長及び、第25回ミス・ミスター立教コンテストプロデューサー　菊池　遼
「キャンプストアもお陰様で無事終えることができ、広研現役生活も残りわずかとなりましたが、ミスコンテストやその他広研活動に尽力していきたいと思います。今後とも56回現役をよろしくお願いいたします。」

●合宿長　吉田裕一郎
「今後も引き続き広告研究会のために何か一つでも多くのことが、やれたらと思います。ご指導の方よろしくお願いします。」

●催物　真柴　涼
「広研を創る側としての日々は残り数少ないですが、自分たちの経験を次代に繋ぐため、日々精進していこうと思います。」

●PR　宮川　涼
「役員生活、最後まで笑顔で頑張ります！」

●営業会計　原　恵
「残りの広研生活、悔いのないよう精一杯楽しみつつ頑張りたいと思います。」

●合宿会計　水城優花
「今後も引き続き広告研究会のために何か一つでも多くのことが、やれたらと思います。ご指導の方よろしくお願いします。」

●第25回ミス・ミスター立教コンテストディレクター　勝又千晶
「OBさんはじめ、様々な方々に応援頂き、ミスコンは今年で25回目を迎えることができました。ありがとうございます。25回目に相応しい華やかなコンテストにしたいと思います。」

●第25回ミス・ミスター立教コンテストプレスエージェント　千國恵美
「第25回ミス・ミスター立教が皆様の心に残る、素敵なイベントとなるよう精一杯頑張りたいと思います。」

キャンプストアを終えて

第56回立教学生キャンプストア店長　鵜澤宏明

8月24日の営業終了、9月5日までの後片付けをもって、無事に第56回立教学生キャンプストアの全日程を終了することができました。これも現役部員、協賛企業、OB会の方々の協力があったからだと改めて思います。

準備期間中は天候に恵まれ、楽しく、順調に準備をすることができましたが、営業期間は中々天候にも恵まれず、それどころか台風が接近したり、大きな地震が数回発生したりと自然のアクシデントがよく起こったキャンストとなりました。色々とドタバタはしたものの、最後まで大きな事故や病気もなく終えることができたのでとてもホッとしています。しかし、終わってみれば何もかもが非常にあっという間で、最後のキャンプストアを終えた今でも、大学に入学して初めて体験したキャンプストアが昨日のことのように思い出されるくらいに館山での全ての出来事が新鮮な思い出となっています。それくらい、1年のキャンストも役員のキャンストも夢中になって取り組んでいた自分がいるのだなと感じました。

その中でもやはり自分が一番れしかったのは、キャンストに参加した現役部員の「楽しかった」「ありがとう」という声でした。自分なりに考えて、楽しいことがキャンストを運営していく上での1番のモチベーションであり、これがあるから辛いことも頑張れると考えているので「楽しかった」という声が聞けたことは運営の中心となった僕にとっては嬉しい声でした。

また本年度の運営テーマを「感謝」としたこともあり、「ありがとう」という声がとてもたくさん聞けたことが達成感につながっています。これからも、部員同士、地元の方々、協力してくださる企業の方、OB会の皆様に対する感謝の気持ちを忘れず、来年、再来年とキャンプストアが続いていけばなと思います。

また、売り上げは前年度に比べて下がってはしまいましたが、終えた後の部員の顔、そして自分を見て今までで一番のキャンストができたと思います。また来年、後輩たちがさらに今までで一番のキャンストを目指して頑張ると思うので引き続き、応援、協力をお願いします。どうもありがとうございました。

すが、気を抜く間もなくミス・ミスター立教コンテストを迎えようとしています。

研究局やその他研究活動にも追われながら、「主体的に目的を持って」「マーケティングの実践の場」「経験の場」この3つの運営方針を軸に現役一同、日々邁進しております。特に一年生の一年生企画に取り組みつつミス・ミスター立教コンテストへの、のめり込む姿はバイタリティーを感じさせ驚かされます。

今年で25周年を迎えることを記念し、また研究局だけではまかない切れない制作の延長としてフリーペーパーを発行いたします。また、Mobile・Web・紙媒体・ラジオ・テレビと5つの媒体と連動展開を目指し、多くの企業の方々にご協力いただき、クロスメディアにも挑戦しております。

OB・OGの皆様、是非11月3日は直接会場にお越しいただき、現役とミス・ミスター立教コンテストのリアルな姿をご覧ください。

ミス・ミスター立教コンテスト　11月3日　タッカーホールにて開催

営業副店長及びプロデューサーの菊池です。キャンプストアもついこの間、無事に終えることができたとホッとしているところです

訃　報

昭和31年卒業の、鈴木米太郎先輩が、本年3月ご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

平成20年度 OB総会報告

去る4月24日（金）6時30分より立教大学第一学食にて、平成20年度OB総会が30余名のOB会員を迎え開催されました。昨年の55周年記念パーティーなどの事業報告、会計報告の後、新たな年度の事業計画案、予算案、一部会則の改定案等々提案・説明され、協議の結果無事承認されました。また事務局に新たに5人の40・50年代卒のOBを迎え、従来以上のOB会運営の充実へのスタートが切られました。

その後昨年の記念パーティーを共に成功させた現役役員諸君と和やかに歓談し、「OBと現役の融合」と言うテーマにまた一歩前進したようです。

（生稲栄次46年卒記）

■事業案

一、定例役員会の開催（継続）
二、会報の発行（継続）
三、催事
①ゴルフコンペ「ザ・マスターズ」の開催（継続）5月予定（無事終了しました）
②キャンスト訪問バスツアー（2回目）（7ページご参照）
③新企画　オータムフェスティバルの開催（11月予定）
四、現役との交流、支援活動
①広告講座開催「45年卒ゼロックス役員・吉田晴彦氏に講師依頼」②ミス・ミスター立教コンテストの協賛
五、OB会ホームページの復活、立ち上げの企画・制作
六、キャンストリニューアル検討委員会の設立

会計報告（平成20年4月1日～平成21年3月31日）

［一般会計の部］

収入			支出		
前年度繰越		582,562	口座引落し手数料	みずほフアクター（株）（口座登録・引落・口座振替用紙他）	86,331
会費	自動振替（347名）	1,041,000	会報印刷代	28号印刷代及び葉書・封筒印刷代	209,000
	現金・振込（17名）	54,000		28号印刷代及び葉書・封筒印刷代	177,450
寄付金		2,000	会報発送代		194,110
			返信葉書回収費		19,390
20年度総会会費		317,000	総会開催費用	20年度総会費用（立教大学第一学食）	325,000
キャンプストアツアー	平成20年7月26日実施	266,000	キャンプストアツアー	平成20年7月26日実施	252,799
雑収入	55周年パーティ余剰金	18,284	マスターズ補助金	平成20年5月6日実施	50,000
普通預金利息		1,461	広告講座謝礼	4回実施	80,000
				キャンスト現役支援	81,500
				ミス・ミスター立教コンテスト賞品代補助	40,000
				現役新役員との懇親会補助	35,000
			寄付	立教未来計画基金	100,000
			その他	支払手数料及び返金	6,315
				事務用品費	23,455
				慶弔費「萩谷伸一（45年）」	20,000
小計		2,262,307	小計		1,700,350
			次年度繰越金		561,957
合計		2,262,307	合計		2,262,307

［キャンスト基金の部］

収入		支出	
前年度繰越	4,716,141		
ザ・マスターズ　ドネイションホール	25,000		
ザ・マスターズ　オネスト罰金	15,000		
林先生より寄付	10,000		
平成20年度CS売上拠出金	210,005		
平成20年度定期預金利息	13,243		
収入計	4,989,389	支出計	0
		次年度繰越金	4,989,389

ホームページがリニューアル

10月下旬サイトオープン（予定）

充実のコンテンツ。会員相互の情報・意見交換の場に

URL:www.rikkyo/ad/ob.jp

ＯＢ会の活動も55周年を通過し、新たなページを綴ることとなりました。

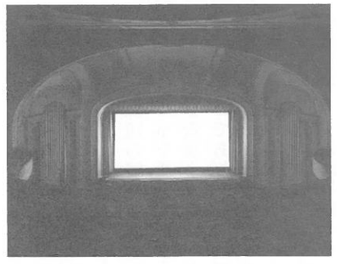
そこでＯＢ会として本年より新たな試みに取り組んでまいります。ここし、全く新しい会員参加型のホームページを新設いたします。ホームページを閉鎖にはイベント情報、現役の活動、ニュースなどを配信するメインページに加え、パスワードを使用する会員専用ページを設け、会員同士の近況報告や相互の意見情報交換、ビジネス情報交換、年度ごとの忘年会などの飲み会情報、マスターズ全体コンペや年度対抗ゴルフの情報など、アップデートな意見交換のできる場面を創造してまいります。キャンパスで語り合った当時の雰囲気をホームページ上で再現したいと思います。

またその他〈キャンスト等の現役支援〉〈会員相互の親睦を図る各種イベントの開催〉〈会報の充実〉などを通じ、より一層のＯＢ会活動の活性化を図ってまいります。

TOPICS

おめでとうございます！

45年卒　杉本博司氏が世界文化賞受賞



雑誌「BRUTUS」より転載させて頂きました

9月24日、優れた芸術家に贈られる第21回高松宮殿下記念世界文化賞（日本美術協会主催）は絵画部門で初の写真家として杉本博司氏が選ばれた。他に建築・彫刻・音楽・演劇映像の4部門4人の受賞者が決まった。授賞式は10月22日、東京元赤坂の明治記念館で。

■平成21年度役員

会　長　佐藤　弘美〔43年卒〕
副会長　黒岩　俊隆〔44年卒〕
副会長　藪谷　和代〔45年卒〕
会　計　箕輪　正則〔47年卒〕
会計補佐　山内　信明〔50年卒〕（新任）

名誉会長　戸田　茂〔33年卒〕
相談役　勝呂　哲郎〔31年卒〕
相談役　小関　武〔41年卒〕

■事務局

事務局長　及川　哲〔45年卒〕
事務局長代理　久高　健寿〔49年卒〕
広報　堀江　昌宏〔44年卒〕
広報　平井喜美子〔45年卒〕
総会　生稲　栄次〔46年卒〕
広報　谷口　茂〔47年卒〕
総会　小林　春代〔48年卒〕（新任）
企画　杉本　誠三〔49年卒〕（新任）
企画　松川　哲夫〔51年卒〕（新任）
広報　相馬　邦夫〔52年卒〕（新任）
現役交流　大野誠一郎〔H.6年卒〕

年度幹事会幹事長／会計監査担当
上沢　邦夫〔43年卒〕

経済界で活躍するOBインタビュー③

富士ゼロックス株式会社
代表取締役専務執行役員
吉田晴彦氏

今回は現役時代、調査班に所属し、キャンプストアでは副店長を務め、現在富士ゼロックス代表取締役専務執行役員となって活躍していらっしゃる昭和45年卒業の吉田晴彦さんに登場していただきました。

きっかけは池袋西口コピーセンター

自分が今何故、富士ゼロックスという会社に居るのかについて考えると、XEROXという乾式複写機との出会いという事があると思います。学生時代、試験の前になると友人のノートを借り、写すという事は恒例とも云える行事でありましたが、何かの手違いでそれが出来なくなるという事は学生にとっては一大事でありました。その様な時に、当時百人力のサポーターであったのが、池袋西口にあったゼロックスのコピーサービスでした。当時のゼロックスのコピー1枚は、JRの初乗り料金より高く、学生にとっては大変な出費でしたので、それを使用するのは本当に緊急の時だけであったことを想い出します。

ある時、私がコピーを取りにいくとゼロックスの機械が故障中で、サービスマンが修理している場面に出くわしました。私は経済学部の学生で機械など知識はありませんでしたが、機械修理の人に色々と質問すると大変親切に素人にも解かる様な最先端技術の説明を受け、大変感心したのを今でも鮮明に憶えています。この事がきっかけで富士ゼロックスという会社を知り、友人と一緒に就職試験を受け、それから39年間の長きに亘り、富士ゼロックスに在席するという事になった次第です。

入社早々、退職を覚悟

入社後、6ヶ月の研修がありました。それが終わると、全員が営業部門に配属され実働に入りました。私が最初に担当したのは、古いビルが多い丸の内一丁目でした。苦労の末ようやく商談を決めてもビルの電源不足等により機械の導入に至らないというケースが度々ありました。

当時私が所属した営業所長からは、営業全員に公平にテリトリーを与えたのに成果があがらないのは努力不足であると、新入社員の私は度々叱責され、営業というものにややうんざりしていました。ある時、私は覚悟を決め、営業所長が言うところの担当するテリトリーが他のそれと公平であるという基準とは何か答えて欲しいと所長に問いました。この発言は、所長をいたく怒らせる結果となり、私自身入社早々ですが退職を覚悟したような次第でした。

幸いにも先輩のその後のフォローにより、事無きに終えました。私は、その時の自分の発言を今でも覚えていますし、間違った事は言っていなかったと思っています。思った事を言うというのは勇気がいる事ですが、そのタイミングを間違わなければ、組織においてマイナスな事ではなくプラスに作用するものではないかと考えます。

ひょんなことから、米国へ

しばらくして、担当地区が変わりました。その地区にも、既に多くのゼロックスのお客様がおられましたが、一方で横文字の会社（外資の駐在事務所等）は、共通して機械を使用されていないという事に気付き、徹底してそれらの事務所にアプローチしました。それまで担当した営業が英語が故に避けていたのか、上々の成果を出すことが出来ました。この事が会社の目に止まったのか、その後米国のXEROXへの転勤が命じられました。私は米国人の中に一人入れられた訳ですが、お陰で沢山の事を学ぶことが出来ました。米国へ行って学んだ事の一つには、日本では沈黙は金なりとも云いますが、欧米では沈黙は言っていることが全く解からないか、又は全く異論はないという表現であるとられてしまうという事でした。そういう中で、自分の考えを堂々と言うという事が自然に身についてきたように思います。米国勤務は、その後の私の人生にとって貴重な財産になったと思っています。

しかし、そんな格好良い事ばかりではなく、沢山の失敗エピソードがありますが、これらの失敗もまた大変に重要な私の財産であると思います。

広告のテーマは「もの」から「こと」へ

当社は、単に機械を提供するだけではなく、お客様の仕事の仕方、プロセス変革のお手伝いを通じ、企業内にある膨大な情報知識をいかに経営に生かすかという事が事業命題であると考えています。テレビCMは、富士ゼロックスは、お客様のパートナーとして、経営課題の解決をお手伝いしますという事を訴えていますが、「こと」を表現するのは、大変に難しいものであります。私個人として好きなCMは、鍵盤の1つしかないピアノを何十台も使って音楽を作り上げるというCMです。訴えたかった事は、我々の一つ一つの知は、鍵盤の一つであり、各人のそれらがぶつかり合い、ハーモナイズされる事により、新たな知が生まれるという事ですが、どこまで理解いただけたか、忸怩たるものがあります。

広告研究会の後輩へ

世界は、今大きく変わろうとしています。物・サービスそして情報が溢れる今日、それを提供する側にとってターゲットとする消費者にメッセージを届けることが大変難しくなっている事は想像に難くありません。しかし、この様な変化は又、新たな可能性を生み出すチャンスであるとも言えます。この様な変化の時代に、皆さん達には、勇気を持って自分の夢の実現に挑戦しつづけて欲しいと願っています。私が好きなロバート・フロストの詩を贈ります。

「森の中で　ふたまたの道があり
一方は踏みならされた　もう一方はだれも通った跡がなかった
わたしは後者を選んだ　それが大きな違いをもたらした」

OB会に新しい風を

新役員に48年卒の小林さん、49年卒の杉本さん、50年卒の山内さん、51年卒松川さん、52年卒相馬さんの5人の方々が加わってくれました。本日はそのうち小林、杉本、山内の皆さんに抱負を語っていただきました。（司会は会報担当の平井喜美子です。）

会　新役員になられた今の気持をお聞かせください。

山内　50年卒の僕らはここ数年前まで同期会として集まることもなくて、杉本さん達に相乗りと言う感じでやっていたんですけど、五十を過ぎるとみんな仕事も暇になってきて、ここ数年は同期会でも集まるようになって来まして、その時お話を頂き何か力になれることがあればと思って承諾いたしました。三十代、四十代はサラリーマンやってたらなかなか参加できないですからOB会は難しいですよね。年齢が僕らのちょっと下の年代から上の方が集まるんで三、四十代の参加率が良くないですね。

司会　OB会はこんなことをやったらいいんじゃないかというアイディアがありますか？

杉本　今同期会の話が出ましたが、昭和六十年代とか平成の卒業生は二、三人で集まることがあっても広研を軸にして集まってはいないのではないかなという気がするんです。会員の在籍数を見ると昭和六十年からは十人から二十人、平成卒は十人から多くても二十人いかないですね。OB会費の三千円、OB会ってなんだろうと思ったときには、自分と違う世界の話と言う感があるのでは。欲しいものにはお金を出すけどいらないものには出したくないと言う傾向もあるし、そう考えると今後の継続は難しいのかなと考えざるを得ないですよね。ではその所属意識を高め、同じ広研を卒業した仲間たちなんだと言う気持ちを持ってもらえるような活動を、今から考えていかなくてはいけないのではないかと。それにはすぐできることと多少時間をかけてやっていくことを区別して、できることから始めてゆきたいですね。まず、年度幹事が音頭を取って最低年1回の同期会を開催する、この会にOB会として積極的に支援する。例えば焼酎の一本でも寄贈して応援の気持ちを表すとか、会報やホームページに今年度はこの年度のこういう方々が参加しましたとかを載せれば、それを見た前後の代の方が、彼、彼女が出るのなら今度は自分も参加してみようかとかということで次の会に繋がるでしょうし、開催予定をホームページ、会報に載せて参加者を募るのも効果があるかもしれません。

司会　すぐにはできないことは何でしょうか

杉本　僕らが集まっているのは、たまたま同期の久高くんが渋谷にお店を持っていたので、何かと言うと集まっていたのが発展して、年一回の新年会になったわけです。OB会には飲食関係のOBの方がいらっしゃいますから、例えば十字屋ホールでのダンスの夕べなどの席、ワンテーブルを年度会をやるなら確保するからいらっしゃいと呼びかけてみたり、そんな関係の方の情報をホームページにコーナーを設けて載せるなりしてもらえるとどうでしょうか。その呼びかけたらどうですが経費はかかりますが、会費を払わないとまずいなあと言う思いを抱くことにもなるような気がします。周年パーティの動員にしても各代がまとまっていれば呼びかけやすいですよね。

司会　小林さんはいかがですか？

小林　私はOB会には無関心で、杉本さんの学年の新年会に五年前から便乗させていただいていたのです。OB会に係わってみると学生時代より交流の幅が広いのですね。大先輩とかうんと若い人たちとかそういうお付き合いも楽しいものだなと言う実感を持ちましたのでこういう良さを色々な方にPRして少しでも広研にかかわっていただきたいなと考えています。

杉本　今度年代対抗ゴルフを計画していますが、下が55年卒まで、上が48年卒まで広がりました。少しずつやっていけば若い人たちともそういう繋がりができると思います。年度会が楽しければそれに付随して広がりますしね。だからその応援をOB会がしてあげることが必要なのではないか、結果的にはそれがOB会に入っていて良かったと言うことになると思います。

僕の持論なのですがOB会は合衆国の連邦政府のようなもので、各年代は各州にあたる。そこで、自治は各州に任せる。州が良くなってくれば連合大会を連邦政府が四年に1回か五年に1回やればいいと思うのです。ただ年度幹事の役割を明確にする必要があるかもしれません。OB役員会で決まったことを伝達するだけでなく、年度幹事の方の活躍で年度の集まりがもっと楽しくなるかもしれませんから。

司会　たくさんの貴重なご意見、ありがとうございました。新しい役員の皆様と共に広告研究会のOB会がますます発展していくことを願っております。

座談会当日所用で欠席された松相馬両氏のコメントを紹介します

キャンの店長ったばに、その人生まりました。会社（出版社）でお祭り騒ぎの創刊ばかり。家は勤務（家事）につかず、プベートは…愛の魂、正義の心♪初年度は、歴代の店長に集ていただいて、知恵を絞り懸キャンスト改修に手をつけた思っています。

松川哲

この度しくホページ当するになりた、52の相馬です。大学を卒業して30余年、今回OB会のお手伝することになりました。

10月の下旬のサイトオープ向けて、現役の方と一緒に作て参ります。当面は様々な広ニュースを中心に発信してまますが、将来は会員専用のペを設け、会員同志だけの情報の場も作っていきたいと思っります。今後徐々に新しいコンツも作ってまいります。

私が生まれた昭和28年の翌スタートしたキャンストが、年齢とともに歩んでいるのも何縁と感じOB会のお手伝いさいただきます。

相馬邦

会報発刊15年と共に 広研OB会ゴルフコンペの記録と記憶

広研ゴルフコンペは本当に楽しいコンペです!!

広研ゴルフコンペ参加のゴルフ好きの皆様、コンペ参加・運営にご協力頂き有難うございます。

会報の創刊号より記事にしていただきました。（別表）そのお陰でプライベート・コンペから広研OB会の公式行事になり、参加人数も40名を超えました。第6回よりOB会の予算も頂き、同時にキャンプ・ストア基金へのドネイションホールも行い、せっせと寄付を開始しました。

ゴルフ・コースもメンバーさん、オーナーさん（?）のご紹介によりあっち、こっちで開催。また、お天気も自然を相手に変化に富、言い訳のできない晴天、台風接近中前泊組があり!中止かと思えば台風一過の晴天、ずぶぬれのゴルフ、雷の中断も経験。最悪は豪雨によりハーフで中止!（水着着用令も出ました）。さらに、ついてない方は、帰りの高速道路の事故渋滞の酷いこと!（携帯の情報交換が面白かった）。幹事さんも大変で、入念な打合せ、下見をしたのにギックリ腰で欠場。かと思えば、賞品集めにシニア・トーナメントのプロ・アマに参戦、チーム優勝にてキャディーバック3ヶその他ゲット!etc. 楽しい出来事がありましたねぇ、黒岩先輩（44卒）。

さて、コンペですから成績ですが、有枝一朗氏（37卒）の2回出場100パーセント完全優勝!。山口隆氏（44卒）のベスグロの回数。当会ではレベルが違います、スゴイ! しかし、コンペは新ペリア方式です、参加していただければ「あなた」にも「優勝」のチャンスがあります。広研公式行事に名前を記しましょう!先輩、後輩、OB、OG多くの方の参加をお待ちしています。

次回幹事 中田透（47卒）久高健寿（49卒）。

黒岩さん、優勝は「運」ですかねぇ・・。

（久高健寿49年卒記）

直近第14回マスターズ（久能CCにて）

OB会ゴルフコンペ〈ザ・マスターズ〉の軌跡

OB会報	大会名	開催日・コース名	参加者・優勝者・卒年	B.G.・卒年
創刊号	広研OB有志ゴルフコンペ	H6.9.3 姉ケ崎	30名・中島牧夫(52)	山口 隆(44)
第3号	広研ゴルフコンペ	H7.9.10 藤代	35名・黒岩俊隆(44)	山口 隆(44)
第5号	第1回 ザ・マスターズ	H8.9.23 セントラル	43名・久高健寿(49)	山口 隆(44)
第7号	第2回 ザ・マスターズ	H9.9.15 セントラル	44名・金井紀征(41)	山口 隆(44)
			女性・薮谷和代(45)	麿山優子(55)
第9号	第3回 ザ・マスターズ	H10.9.6 セントラル	44名・玉井康之(42)	茂木康三郎(44)
			女性・3名	
	30'THゴルフ同好会	H10.10.4 望月東急	7名・石川智張(62)	
第11号	第4回 ザ・マスターズ	H11.9.15 富士小山	43名・豪雨、強風により競技途中中止	
第12号	ジ・オープン	H12.5.4 愛鷹600	30名・中島牧夫(52)	平田敬和(51) ハンデキャップ戦
第13号	第5回 ザ・マスターズ	H12.9.10セントラルJTC	29名・山口 隆(44)	山口 隆(44) 後半2組スコール・雷で40分中断
第14号	第6回 ザ・マスターズ	H13.5.20 源氏山	26名・柴田 健(48)	山口 隆(44)
			※OB会より補助金、ドネイションホール（寄付金）始まる	
第15号	東京オープン	H13.9.24 セントラル	18名・松川哲夫(51)	
第16号	東京オープン	H14.5 愛鷹600	11名・平田敬和(51)	スコア公表せず
第17号	第7回 ザ・マスターズ	H14.9.16 富士小山	29名・松川哲夫(51)	山口 隆(44)
第18号	第8回 ザ・マスターズ	H15.5.5 久能	43名・宮田富夫(42)	山口 隆(44)
			※立大広研創立50周年記念ゴルフコンペ、マスコミ立教会・観光クラブ・ライオンズクラブ等交友有志多数参加	
第21号	第9回 ザ・マスターズ	H16.10.3 佐原	36名・有枝一朗(37)	有枝一朗(37) 時折強風・豪雨・ずぶぬれ
第23号	第10回 ザ・マスターズ	H17.9.4 久能	36名・有枝一朗(37)	有枝一朗(37)
第25号	第11回 ザ・マスターズ	H18.9.3 下野	40名・平田敬和(51)	山口 隆(44)
第27号	第12回 ザ・マスターズ	H19.9.2 真名子	40名・谷 恭司(35)	山口 隆(44)
第28号	第13回 ザ・マスターズ	H20.5.6 久能	40名・黒岩俊隆(44)	金安章子(39)
第30号	第14回 ザ・マスターズ	H21.5.6 久能	22名・久高健寿(49)	山口 隆(44)

第2回館山キャンスト・バスツアー報告

幹事：田久保芳克（昭45卒）

今年も昨年に続き第2回目を晴天の7月25日（土）に実施しました。林先生を始め総勢31名が東京駅前の丸ビルに集合。出発前に懐かしそうに歓談を楽しみ、9時30分より出発。途中で黒岩先輩の神田川に寄って飲み物などを積み込んでアクアライン経由にて館山へ。途中2回の休憩を入れても2時間15分で館山市到着、昔と比べてずいぶん近くなりました。店には直行せず、フラワーラインをドライブして「海の駅」にて休憩し、集合写真の撮影。皆さん笑顔が一杯だったのが印象的でした。またキャンストに向かうまでは海岸を走りましたので、思い出の沖ノ島が見えたときには全員が一挙に学生時代に戻ったようで食い入るように外の景色を眺めていました。

昔と違い店の前は公共の駐車場となっていて、景色も一変。でも笑顔の現役学生に出迎えられキャンスト到着しました。店の表情は変わらずキャンスト56年という歴史の重みを改めて感じました。隣りの海の家「ワダ」さんにて昼食、役員との懇親会。その後は懐かしのキャンストに場所を移し売上げに貢献。私達の代にはなかった酒類、食事、つまみとメニューも豊富で大いに盛り上りました。皆さんそれぞれの現役時代を思い出していたのでしょう、終始笑顔が絶えずさらに飲んで食べていました。3時過ぎに現役に送られて帰路へ。途中の「道の駅」でそれぞれ土産を買って夕方には無事東京駅に帰着。バスでわいわいやりながらのキャンスト訪問は昨年からの企画ですが楽しいですよ。来年も多分企画されると思いますので、今年参加できなかった方、来年はぜひ気楽にご参加を!

今回のバスツアーをビデオ撮影しDVDにまとめて贈っていただいた近藤先輩（昭42年卒）素晴らしい出来で感激です。ありがとうございました!

田久保芳克（45年卒記）

ワダさんで昼食

キャンスト店内

現役だより

●本年度委員長　宮田 翔

「残り少ない任期ですが、より良い広研を作るために精一杯尽力して参りますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願いします。」

●運営副委員長　板垣由希子

「現役の中でオータムフェスティバルを担当させていただいております。OB・OGの方々のたくさんご参加、お待ちしております。よろしくお願いいたします。」

●一般会計　古森一穂

「お金を扱うという責任ある立場として、最後まで気を抜かず頑張って行こうと思います。よろしくお願いします。」

●制作局長　中島 奏

「最後まで第56回の役員として、精一杯楽しみつつ、精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。」

●出版局長　降矢佳奈

「残りの現役生活を同期や後輩と一緒に、次に繋がるように頑張っていきたいと思います。」

●記録　花岡百合奈

「今期も残り僅かとなりましたが、役員として悔いのないよう精一杯活動していきたいと思います。」

●渉外　赤堀友香

「最後まで広研人を全うしたいと思います。よろしくお願い致します。」

●WEB局長　尾崎将人

「今回OB会のHPを作らせていただきました。ご指摘などがありましたら申し付けください。」

●運営役員　世羅田あゆみ

「残り少ない広研生活ですが、みんなと想いを共有し、たくさんの思い出と笑顔をつくりたいと思います。」

●運営役員　中谷朱里

「残りの任期、精一杯頑張ります。」

●運営役員　西尾慎太郎

「残り少ない任期ですが最後まで第56回に力を注ぎ、下にきれいな形でバトンタッチできるよう頑張ります。」

●研究局長　岩崎 光

「残り少ない期間ですが、広告研究をするサークルの名に恥じぬよう会員の底上げをし、活動の幅の拡大を目指していくつもりです。変化と革新の志を持ち精進していきます。これからも現役会員をよろしくお願いいたします。」

●研究副局長　羽賀 茜

「少しでも研究局が充実し、研究副局長という役職を定着させられよう頑張りたいと思います。」